

重要課題評価シート（評価用）

重要特定課題	北上市公共交通政策	
部課等名	都市整備部 都市計画課	
関連施策 (総合計画)	政策体系5-4-1	地域の実情に応じた公共交通体系の構築
	政策体系5-4-2	公共交通の利用促進
関連施策 (総合戦略)	施策(4-①)	暮らしを支える公共交通体系の構築
	具体的な取組み	公共交通の利便性の向上と利用促進
		路線バス交通空白地域への交通の確保

■ 1. 目的適合性（公益性）

※チェックは○・△・×で記載

チェック項目	市担当	委員会
①総合計画に沿った取り組みをしているか。	○	○
②国・県・民間との競合はないか。代替可能な類似の事業がないか。	○	○
③取り組み廃止により市民は不利益を被るか。	○	○

市担当部課の評価

評価の理由	<input checked="" type="checkbox"/> A. 適切 <input type="checkbox"/> B. 概ね適切 <input type="checkbox"/> C. 改善が必要 <input type="checkbox"/> D. 抜本的な改革が必要			
	①について 基本方針に沿った交通政策の施策を実施している ②について 代替可能な類似事業なし ③について 更なる交通弱者の発生により生活面や健康面、さらには経済的活動に支障をきたす恐れがある			

政策評価委員会の評価

<input checked="" type="checkbox"/> A. 適切 <input type="checkbox"/> B. 概ね適切 <input type="checkbox"/> C. 改善が必要 <input type="checkbox"/> D. 抜本的な改革が必要			
--	--	--	--

重要課題評価シート（評価用）

政策評価 委員の意見

- ①-1 総合計画に沿った取り組みと考える。
 - ①-2 総合計画に沿って、「北上市公共交通ビジョン」（H22）、「あじさい都市きたかみ公共交通網形成計画」（H29）、「公共交通アクション・プラン」（H30）を策定し実施してきた。
 - ①-3 総合計画に掲げる基本目標「誰もが快適に暮らし続けられるまちづくり」を実現するための施策「みんなで支える公共交通体系の構築」を実現する取組といえる。
 - ①-4 総合計画における「地域の実情に応じた公共交通体系の構築」及び「公共交通の利用促進」の政策体系の中で実施されており、総合計画に沿った取り組みをしている。
 - ①-5 総合計画に沿った取り組みを実施しているものと認められる。
-
- ②-1 市の公共交通政策にあたっては、民間その他の機関との協働によるサービスの確保・向上に取り組むべき状況にあり、競合関係にはない。また、現状では現在の事業の代替を期待できる主体を探すことは難しい状況にある。
 - ②-2 鉄道・バスの民間事業者、国・県による補助事業、市による公共交通の運営及び補助が併存しているという意味では競合している。これらを利用者の利便性向上と公共交通の維持という目標に合わせて、効率的に連携することが課題。
 - ②-3 既存公共交通の撤退が相次ぐなか、公共交通を補完する取組となっている。
 - ②-4 民間事業者単独では、不採算となる事業の実施を計画しており、競合はない。また、代替可能な類似の事業はない。
 - ②-5 国、県の施策を取り込みつつ、民間事業者と連携して取り組んでいるものであり、競合ないし代替可能性についてはないものと考えられる。
-
- ③-1 取り組みの廃止は市民に不利益を与える。
 - ③-2 移動の自由を奪われるとともに、町の活性が低下することにより不利益を被る。
 - ③-3 若年者、高齢者を中心に深刻な不利益を被る。
 - ③-4 今後、一層の高齢化が進む中で、交通弱者の増加が予想されており、取り組み廃止により市民は不利益を被る。
 - ③-5 いわゆる交通弱者の不利益は大きいものと思われる。

重要課題評価シート（評価用）

■ 2. 実施状況（計画性および効率性）

※チェックは○・△・×で記載

チェック項目	市担当	委員会
①計画的に取り組みを行っているか。	○	○
②効率的な取り組みとなっているか。	○	○
③市民ニーズを適切に把握できているか。	○	△
④他市町村に比較しての優位性はあるか。	○	△

市担当部課の評価

	<input checked="" type="checkbox"/> A. 適切	<input type="checkbox"/> B. 概ね適切	<input type="checkbox"/> C. 改善が必要	<input type="checkbox"/> D. 抜本的な改革が必要
評価の理由	<p>①について 今般策定したあじさい都市きたかみ公共交通網形成計画やあじさい都市きたかみ公共交通アクションプランに基づいた取り組みができています</p> <p>②について アクションプランにおいては、効率性やコストを意識した取り組みを行うこととしている</p> <p>③について 計画策定の際のアンケート調査、地域との意見交換会、利用者からのインタビュー調査を実施するなどしてニーズの把握に努めている</p> <p>④について 新拠点間交通の運行、地域内交通への補助、市・地域・事業者との三者協約の締結などについて他市町村からも注目を集めている</p>			

政策評価委員会の評価

	<input type="checkbox"/> A. 適切	<input checked="" type="checkbox"/> B. 概ね適切	<input type="checkbox"/> C. 改善が必要	<input type="checkbox"/> D. 抜本的な改革が必要
政策評価委員の意見	<p>①-1 公共交通網形成計画とアクションプランに従って計画的な取り組みを行おうとしている。</p> <p>①-2 計画を策定して実施している。</p> <p>①-3 しっかりとした調査にもとづき計画を策定し、それを順次実行に移すなど計画的である。</p> <p>①-4 「あじさい都市きたかみ公共交通網形成計画」及びその実施計画である「あじさい都市きたかみ公共交通アクションプラン」を策定し、計画的に取り組みを行っている。</p> <p>①-5 平成22年に公表した「北上市公共交通ビジョン」をベースに、平成26年施行の改正地域公共交通活性化再生法に基づき「北上市地域公共交通網形成計画」へ移行し、その実施計画として「公共交通アクションプラン」を策定するなど、計画的な取り組みが進められている。</p> <p>②-1 効率的とは言えない路線も見られるが、市民の足の確保からやむを得ないものと考えられる。利用促進のため一層の努力・工夫は期待される。近隣の自治体の支出に比べれば効率的と評価して良い。</p> <p>②-2 公共交通維持のため国・県の補助金が導入されており、市の単独補助は比較的少ない。</p>			

重要課題評価シート（評価用）

- ②-3 既存の公共交通を生かす取組となっており、効率的であるといえる。
- ②-4 アクションプランにおいて多くの事業の実施期間が、平成30年度以降となっており、効率的な取り組みとなっているかの評価は困難である。平成29年度より実施を開始した公共交通利用促進事業については、公共交通乗り方教室の開催により、6名の園児が保護者と一緒に路線バスを利用したとあるが、事業と成果の関連性が高いのかは不明である。
- ②-5 近隣都市に比べ、かなり低予算での事業実施となっており、効率性に特段の問題は認められない。
- ③-1 市民ニーズの把握のための努力と成果は認められる。
- ③-2 「公共交通網形成計画」の策定にあたっては、アンケート調査、地域懇談会、各種団体へのヒアリングにより、ニーズを把握するよう努力している。そこで出された意見が計画に取り入れられたものもあるが（地域内交通連絡会の設置による運営への住民参加、北上市地域内交通運行事業費補助金交付要綱の見直し等）、意見が十分反映されていないものもある（乗り継ぎの不便、ディマンド交通前日予約への抵抗感等）。
- ③-3 計画策定時にしっかりとした調査を実施している。
- ③-4 「あじさい都市きたかみ公共交通網形成計画」の策定にあたり、市民アンケートが実施されている。また、地域懇談会等において、個別具体的な意見の聴取がなされているが、これらの意見が、アクションプランにおいて、どのように反映され、反映されなかったのかが明確になっていない。
- ③-5 市民ニーズの把握について一定の努力は行われている。なお、通勤者の公共交通利用への誘導など、企業等のニーズ把握（通勤手当の効率化など）も今後は必要と思われる。
- ④-1 他市町村と比較しても、公共交通サービス向上のための意欲と努力を感じる。
- ④-2 北上市は、比較的早い時期から公共交通計画を策定していることは認められる。ただ、その成果の優位性が確認できるまでには至っていないのではないかと。
- ④-3 二次交通は、地域住民の移動手段のほか観光客等の移動手段としても活用されるものであり、その状況は一次交通の整備状況も含め自治体の環境によって大きく異なり、他自治体との比較はさほどの意味を持たない。
- ④-4 生活交通における観点では、他市町村に対する優位性は不要と思われる。基本的な方針に観光二次交通の確保がうたわれており、この点においては、比較優位性が必要であるが、具体的な事業は、見受けられない。
- ④-5 地域事情に即した取り組みが行われており、近隣都市と比較しても特段の問題はないと思われる。

重要課題評価シート（評価用）

■ 3. 成果と課題

※チェックは○・△・×で記載

チェック項目	市担当	委員会
①目的に沿った十分な成果を上げているか。	○	△
②課題を適切に把握できているか。	○	△
市担当部課の評価		
評価の理由	<input checked="" type="checkbox"/> A. 適切 <input type="checkbox"/> B. 概ね適切 <input type="checkbox"/> C. 改善が必要 <input type="checkbox"/> D. 抜本的な改革が必要	
	①について 利用促進策の実施により、地域内交通の利用者が増加するなど徐々に成果は上がっている ②について アンケートやインタビューなどのニーズ調査等を通じ適切に課題を把握している。その課題に対応するため、あじさい都市きたかみ公共交通網形成計画及びあじさい都市きたかみ公共交通アクションプランに基づき事業を実施し、課題の解消に努めている	
政策評価委員会の評価		
政策評価委員の意見	<input type="checkbox"/> A. 適切 <input checked="" type="checkbox"/> B. 概ね適切 <input type="checkbox"/> C. 改善が必要 <input type="checkbox"/> D. 抜本的な改革が必要	
	①－1 目的に沿った成果を上げていると思われるが、まだまだ多様な市民のニーズに応えきれていない面もうかがえる。効率とのバランスがとれた解決のための努力の余地があるものと思われる。 ①－2 デイマンド交通の利用は増加しているが、乗り合いバス総走行キロ及び乗車人員は減少が続いており、コミュニティバスもH25年以降、乗客数の減少、運行経費の増加、収支率の低下が生じている。 ①－3 具体的な取組に着手したばかりであり、今後の成果が期待される。 ①－4 「あじさい都市きたかみ公共交通網形成計画」におけるこれまでの取り組みの評価によれば、人口減少に転じている中、一定の成果を上げているものと評価できる。今般計画された多くの事業は、アクションプランにおいて実施期間が、平成30年度以降となっており、成果に関する判断ができる状況にはない。 ①－5 ほぼ目的を達成しているものと認められる。 ②－1 各種調査や検討の場の用意により、課題を適切に把握して、解決に向けての取り組みを進めているものと考えられる。 ②－2 地方圏における公共交通の維持には住民の主体的参加が重要で、「北上市公共交通ビジョン」（H22）においても謳われていた。しかし、今回の計画策定時に行われた地域懇談会で、多くの自治協議会から北上市地域内交通運行事業費補助金について不満の声が出されていた。それは、自治協には補助金の事務負担と金銭的負担がかかるのみで、運行や運営に関与していないというものだった。地域内交通連絡会を設置することになっているので、地域交通の運営への住民参加を進めてほしい。 ②－3 現時点では適切に把握できているといえよう。しかし、公共交通を巡る課題は複雑であり、一次交通を担う会社の営業方針などもあり、常に変化していくことから、不断の課題把握が必要である。 ②－4 「あじさい都市きたかみ公共交通網形成計画」の策定にあたり、市民アンケート等が実施され、「北上市公共交通総合連携計画」における事業の進捗と評価がなされる中で、	

重要課題評価シート（評価用）

課題把握が行われている。今後は、アクションプランにおける事業の実施期間中における、継続的かつ事後的な課題把握が期待される。

②-5 課題の把握に関して特に問題は認められない。

■ 4. 今後の対応

※チェックは○・△・×で記載

チェック項目	市担当	委員会
①市の今後の対応は適切な方向性にあるか。	○	○
②成果を十分に上げることが見込めるか。	○	△
③施策の目的のために必要な取り組みは網羅されているか。	○	△

市担当部課の評価

評価の理由	<input checked="" type="checkbox"/> A. 適切	<input type="checkbox"/> B. 概ね適切	<input type="checkbox"/> C. 改善が必要	<input type="checkbox"/> D. 抜本的な改革が必要
	<p>①について あじさい都市きたかみ公共交通網形成計画等については、北上市地域公共交通会議やあじさい都市交通検討会での検討や、地域・事業者・利用者との度重なる意見交換により策定したものであり、計画における実施事業については適切な方向にあると考えている</p> <p>②について 事業計画の進捗管理、効果的な利用促進策の実施等により十分な成果を上げることは可能である</p> <p>③について あじさい都市きたかみ公共交通網形成計画での事業計画をより具体化するためあじさい都市きたかみ公共交通アクションプランを策定したところであり、必要な取り組みは網羅していると感じている</p>			

政策評価委員会の評価

政策評価委員の意見	<input type="checkbox"/> A. 適切	<input checked="" type="checkbox"/> B. 概ね適切	<input type="checkbox"/> C. 改善が必要	<input type="checkbox"/> D. 抜本的な改革が必要
	<p>①-1 交通網形成計画とアクションプランに基づいて施策・事業を推進することで、今後の方向は適切だと考える。</p> <p>①-2 基本的な目標と方針は適切と考えられる。</p> <p>①-3 「暮らしを支える公共交通体系の構築」という観点では、適切な方向性にあるといえる。</p> <p>①-4 個別事業の評価のみならず、「あじさい都市きたかみ公共交通アクションプラン」について、総括的に進捗をモニタリングしていく必要がある。</p> <p>①-5 北上市の一連の公共交通政策は、少なくとも平成21年に策定着手した「北上市公共交通ビジョン」以来の流れがあり、この間の取り組みに大きな問題はなく、今後の対応も当面は適切な方向性にあると認められる。</p> <p>②-1 交通網形成計画とアクションプランに基づいて施策・事業を推進することにより成果の拡大も期待できる。</p> <p>②-2 地域公共交通は大きな困難を抱えており、性急に成果を求めるのではなく、交通政</p>			

重要課題評価シート（評価用）

策とまちづくり全体について腰を据えた取り組みが求められる。

②-3 公共交通政策の背景には、市民の暮らしの絶えざる変化がある。対象地域において増大するであろう集落存続の問題、集落に暮らす高齢者が元気に外に出かける取組の有無などにより、地域と中心部を結ぶ公共交通政策は絶えず揺らぐことが想定されることから、これらの状況を随時把握するとともに、施策の適切な見直しが必要となる。

②-4 「あじさい都市きたかみ公共交通網形成計画」及びその実施計画である「あじさい都市きたかみ公共交通アクションプラン」は、進捗の途中であり、現時点では、事業のリスク分析等もできる状況ではないため、成果を上げることが見込めるものか判断はできない。

②-5 公共交通網形成計画に掲げる目標の達成は十分に可能と思われる。

③-1 利用数の面から効率面で問題が残る路線も見られることから、公共交通利用拡大のためのソフト面で検討の余地があるものと思われる。量的な拡大が難しい中、公共交通への理解・愛着や利用のし易さのためのさらなる工夫を期待したい。自家用車を利用しないメリットの理解やアドバンテージ提供などの工夫も欲しい。また、市民・市民組織を含めた関係機関による検討や協働の行動体制の創出に活路を見出して欲しい。

③-2 鉄道・バス・タクシー等の事業者、市、住民がそれぞれ主体的に取り組むことが重要である。そのためには、各主体が主体的に取り組むインセンティブと連携のしくみを計画の中に組み込んでおく必要があると思われる。例えば、路線バス事業者に対する市の単独補助金は、赤字分の全額補助、拠点間交通の補助金も運行経費—収益、支線交通運行事業補助金は対象経費の50%となっているが、それが各主体の事業・参加意欲にとって適切か再検討してみるかどうか。

住民の意見を見ると、地域内交通、拠点間交通、幹線交通への乗り継ぎの不便、病院や学校に直行できない不便、必要な時刻に運行していない、前日予約への抵抗など、公共交通の利用を困難にしている様々な問題が述べられている。利用者にとって便利な交通手段にすることが肝心であり、それぞれの地域の実情に合わせて、一つ一つの不便の解決に取り組むことが必要だろう。

③-3 ②の観点から、公共交通政策としての取組との観点よりも、農山村部に居住する住民の生活から、また、持続可能な集落、地域、都市の観点から、さらにはテクノロジー進展の観点から取組を再整理する必要もある。

③-4 計画上、市民ニーズに対して、網羅的に対応がなされているのかが不明確なため、必要な取り組みが網羅されているかの判断はできない。

③-5 予算的な制約や民間事業者側の問題（運転手不足等）も考慮すれば、現状で取り組めるものには取り組んでいると思われる。

■ 5. 総括意見

政策評価委員の意見

①-1 総合計画の方向に基づき、交通網形成計画・アクションプランによりきめ細かな対策が進められており、その工夫や努力の姿を認めることができ評価したい。しかしながら、効率面から将来の持続性や投資効果の面で一部に課題が残る。そのために、公共交通への理解・愛着や利用のし易さのためのさらなる工夫や自家用車を利用しないメリットの理解やアドバンテージ提供などの工夫などソフト面で検討の余地があるものと思われる。また、市民・市民組織を含めた関係機関による検討や協働の行動体制創出など課題解決の余地があるものとする。

①-2 「幹線交通」「拠点間交通」「地域内交通」から構成される交通システムは、計画としてはわかりやすいが、利用者の視点に立ったとき、これらが分断されていると利用の壁になる恐れがある。3つの交通手段の一体的利用を進める取り組みや、硬直的にならず、乗り入れや循環線の設定など、地域の実情に合わせたきめ細かな対応を検討してはどうか。

岩手県の路線バス事業者の主体的な改革を引き出す施策を行うことが、長期的に見て重要と思われる。

重要課題評価シート（評価用）

	<p>①－３ 本施策は、現時点では適切な方向にあると言えるが、外部環境は絶えず変化することが予想されることから、利用者等の意見を聴きつつ、絶えざる見直しを実施していく必要がある。</p> <p>①－４ 主たる目的である生活交通手段の確保における公共交通網の形成という点においては、適切な計画となっているものと考えられる。個別事業の多くは、実施計画において検討や実施の初期段階にあるが、現時点において、概ね計画通り進捗している。</p> <p>①－５ 北上市の公共交通政策については、国や県の施策を取り込みつつ、実際の輸送業務は民間事業者に依存するという形であり、市は直接の事業主体というよりはコーディネータに近い立場と考えられる。そのような制約がある中にある場合は、適切な取り組みがなされていると史料する。</p>
--	---

■ 6. その他特記事項・参考意見等

政策評価委員の意見	<p>①－２ 計画の文章にはカタカナ用語が多用されているが、市民は親しみが持てずわかりにくいのではないかと。例えば、「おでかけコンシェルジュ」「バス停アドプト・プログラム」「地域ターミナル・マネージャー」「モビリティ・パートナー」「バスアテンダント」等。</p> <p>①－３ 現時点では居住者の移動手段の確保提供という目的が中心であるが、今後は生活様式の変化に伴う交流人口の増大や観光客などをも対象とする二次交通のあり方についても検討する必要があると。</p> <p>①－４ 「あじさい都市きたかみ公共交通網形成計画」の策定にあたって収集された市民ニーズに対し、網羅的に対応の検討がなされているのかの整理が必要である。また、観光二次交通の確保に関しては、目標や実現方法の具体性に欠けていると考えられる。</p>
-----------	--